

## 【質疑応答】

### 《オンライン授業の実施状況について》

中国新聞 先頃ですね、新型コロナウイルス対策でオンライン授業に取り組みましたと思います。先月の文教委員会では実施状況、大体半数の学校で、オンライン授業と分散登校を実施されたということがあったのですけれども、この件について、振り返りをしていただきたいと思います。例えば、課題ですとか評価、それから今後について、方針などあればお聞かせください。

教 育 長 今回のこのオンライン授業の件でございますけれども、5月17日の週はほとんどの学校が中間テストということがございましたので、その前週、ゴールデンウィーク明けは、通常の授業はありますけれども、〔試験準備期間のため〕部活は休止という学校が非常に多かったです。試験のときは〔生徒は〕前を向いてしゃべったりもしませんので、それから、昼ご飯を食べずにそのまま帰るということでありましたので、ゴールデンウィーク明けのこの2週間を準備期間といたしまして、5月24日から6月1日までをオンライン授業の〔実施〕期間といたしました。一部、実習〔授業〕等があり、あるいは3年生ということ〔でオンライン授業での実施が難しいということ〕もあって、今回、このオンライン〔授業を実施する〕ということと、それから感染防止をしていくということは非常に悩ましい部分ではあったと思います。完全に感染防止をするということであれば、一切ステイホームというようなことでございますが、昨年、〔学校を〕臨時休業にして、いかに子供たちが学校に来ないということが、心の面、それから、心身ともに非常に大きな影響があるということを経験したわけでございます。その中で子供たちを守り、そして、感染防止対策、医療の崩壊を防ぐということで、大きくは校内にいる生徒数を3分の2に減らして、そして、なるべく感染防止対策をした上で、子供たちの学習の機会をなくすことなく、また部活動につきましても、ちょうど高〔等学〕校総〔合〕体〔育大会〕と重なっておりましたので、昨年はこの〔高等学校〕総〔合〕体〔育大会〕もありませんでしたけれど、今年はあると。広島県だけやらないというわけにはいかないということがありますので。この心の問題と、それから実際の感染防止対策を経た上で、このオンライン授業に準備をして挑みました。その結果、全ての〔高等〕学校で、2つ〔方法が〕ありまして、1つは、完全オンライン〔授業〕ですね。Google meetを使って、全員が顔を出して授業をやるという、みんな家から。先生は学校でこういう形で授業を通常どおりやるわけですけれども、その方法が1つと。それからもう1つは、対面の授業といたしました。その結果、これまでもオンライン授業やってきましたけれども、〔これまでは〕できる先生とできない先生の差があったと思います。ところが今回の件で、全ての先生がもう明日からオンラインですよと〔となっても対応ができる〕。例えば、これが豪雨災害であるとか、あるいは台風であるとか、あるいはコロナではなく、インフルエンザで休業になることもあります。こういった休業のときに、即座に先生たちが〔オンライン授業を〕たちまちできるという体制が今回は取れたなと思っております。私自身も近隣の学校を見に行ったり、例えば、ある学校では、管理職が言わなくても、〔機器の操作に慣れていない〕50代以上の先生の授業は、必ず担任とか、若い先生が付いてですね、初めの方は、先生、ここボタンですよというような〔サポートに入る〕ことがあったり。あるいは、オンライン〔授業〕しづらい書道とか音楽とか、美術とかですね、こういう授業に関しても、カメラに今日描いた絵とその前に描いた絵を左右に映し出して、その違い、自分がこの1時間でどれだけ進んだかということ、生徒たちが先生に写

真を撮って提出したりですね。本当に様々な工夫がなされて、すぐさまオンライン〔授業〕というようなことに対して、非常に進んだなと思っております。ただ、やはりオンラインというのは、私たち大人も、私も毎日このところ、例えば教育再生実行会議だとか、いろんな会議はもうオンラインになってしまっているのですけれども。動かなくていいのですけれども、やはりその前後でちょっと話ができないとか、あうんの呼吸というか、ちょっと友達と話すとかということがやはりできなくて、はいそれでは会議終わりますと、ぶちっと切れて、何かもう一言、今日の会議はこうだったねと言いたいけど言えないとか。ということと同じもどかしさがやはり生徒たちの中でもあるのではないかと思っています。つまり、普通にこの学力を付けるというようなことでは遜色はないのだけれども、この学力の定着度を測るということであったり、あるいは一日中画面を見て、〔友達が〕ここにいるなとか思いながらも、やはりリアルな学校生活だったら、友達と昨日こんなことあったのよとかいう、愚痴が言えたりということも言えないわけです。そういう点で言うと、〔オンライン授業を〕ずっと続けるということもなるべく避けたいなと思っております。ただし、今後どういう形か分かりませんが、いろんな意味で、学校が休業になるというリスクがあると思いますけれども、その際に、今回のこの約 10 日間〔オンライン授業を〕やってみて、全ての先生ができるようになったなということで、学校の方には本当に感謝しております。また、教育委員会としてもこれをやるに当たりまして、特別チームを組みまして、高校教育指導課、学校教育情報化推進課とか、いろんなところに散らばっている指導主事を 13 人集めて、そして、80 校全ての高校に行って、そして先生方に研修をして、確実にできるということを確認して、そして5月 24 日から本当にやっているかどうかということも Google meet で見たり、校長室で一緒に校長先生と見たり、授業観察をしたりしながら進めてきましたので、そういう点では充実したとか有意義な期間、それから機会になったなと、チャンスになったなと思っております。

中国新聞 確認ですが、先生方のスキルとか体制を整えるという意味では非常に有意義があった。ですが、生徒さん同士が顔を合わせておしゃべりをしたりとか、学力の定着を測るにはちょっとまだ課題があるというようなところですかね。

教育長 はい、そうですね。大学の方でももちろんオンライン〔授業〕はやっていますけれども、高校の授業においてなかなか難しいのはハイフレックスというような授業のスタイルだと思います。ハイフレックスというのは目の前に生徒がいるプラス、オンラインも見ながら、両方授業をやっていくというのを大学では、今やっぺらっぺらるわけですけど。これは非常にスキルも要るし、先生方も準備するのにすごく大変です。それから部屋があるからといって、20 人こっちでやって、20 人別のところでやって、こっちは実習で、こっちは普通に授業をやるといってもやはり差が出てきてしまいます。だから、高校の教育においては 40 人一斉にやるということしか、発達段階というか現状ではしょうがないかなと。その代わり、〔人と〕接触する機会を3分の2に低減するという一方で、1年生と2年生を分散登校にして、今回させていただいたということです。これはやはり医療崩壊を防ぐというような観点が必要であったかなと思っております。